

議題 3

SSTの目的と効果

1 SSTとは

・ソーシャルスキルは、**社会で生活するために必要なスキル全般**を指す。

・「必要なスキル」は、障害種や障害の程度、年齢により個別性がある。また、社会情勢等により、社会で必要なスキルは変化していく。

ソーシャルスキルの例

- **対人コミュニケーション**・・・挨拶、言葉遣い、パーソナルスペースのとり方
- **社会マナー**・・・身だしなみ、ビジネスマナー、冠婚葬祭
- **自己管理**・・・金銭管理、服薬管理、アンガーマネジメント
- **自分で困っていることを解決するスキル**・・・質問する、調べるなど
- **SNSの使い方**

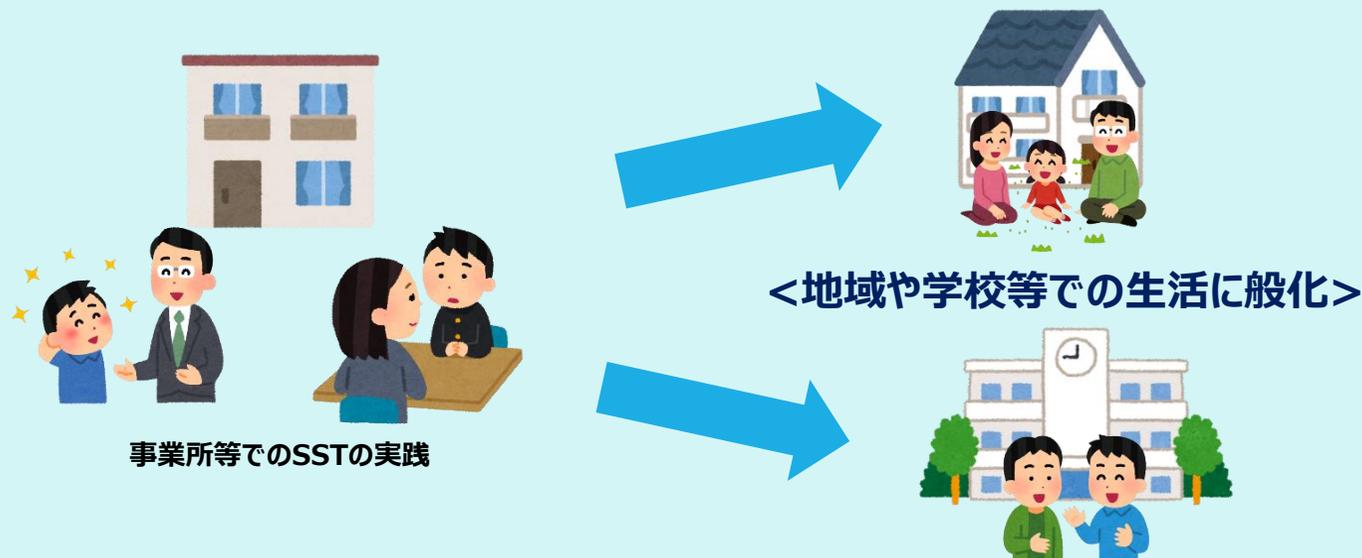
・S S Tは、上記内容について、考え方や行動を学んでいくことを指す。

・なお、本検討会では、主に**社会での対人コミュニケーションスキル**に焦点を当てて議論を進めていく。

2 SSTの目的

- ① 社会で必要な考え方や行動を学び、社会生活・集団生活での対人関係や社会活動を円滑に行うこと
- ② 学んだ知識や行動を、関係者や保護者との連携のもと、日常の学校や家庭等の社会生活で般化できるようにすること

- ・訓練実施場所のみで困難さが解消できていても、学校や家庭等の実社会での応用ができていない場合は、対象児本人の困難さが実社会で継続した状態となる。
- ・支援者は、「対象児が支援場所で学んだことを、どのように社会生活に応用させていくか」という視点が重要となる。



対象児へのSSTは、永続的に行っていくものではなく、適切な目標設定と評価を行い、当初の目標が達成された場合は訓練の終了を検討することも必要。

3 SSTの効果

適切なSSTを継続することで、支援対象児及びその保護者に下記のような効果があると考えられる。

- ①**本人**
 - ・ 困難さが改善されることで、人と関わることへの不安の低減、集団生活や社会生活の場での適応が促進される。
 - ・ 自己理解・他己理解や自己肯定感の醸成、自己表現手段の広がりにつながる。
- ②**保護者**
 - ・ 本人の特性の理解や障害受容が促進される。
 - ・ 本人の特性・障害に応じた日々の関わりや養育につながり、良好な親子関係を築くことができる。
- ③**支援者**
 - ・ 本人の特性の理解が促進されるとともに、支援方法等を十分に検討・振り返る場ができることで、適切な支援につながる。

【留意点】

- 個人の障害種別や障害の程度、年齢又は社会環境等で必要な支援は異なる
- それぞれの児の特性に合わせて、個別支援を始め、必要に応じて小集団支援（ロールプレイ等）を実施することで、より実社会への般化を促すことが可能となる。
- SSTは障害児への多様な支援の一つ。全ての障害児にSSTが必要であるとは限らないが、SSTを実施していない事業所等でも、普段からSSTの視点（個々の特性に合わせた支援の在り方等）を踏まえた支援を行っていくことが重要。

議題 4

本人及び保護者の理解

1 本人と保護者の理解を得ることの重要性

・SSTを実施するにあたり、本人や保護者、周りの支援者によって、それぞれの困り感や支援の必要性の考え方が異なる場合がある。

表 1

	本人の考え	保護者・支援者の考え（※）
パターン①	困り感 <u>有</u>	困り感や支援は必要性は <u>有る</u> と考えており <u>本人と同一</u>
パターン②	困り感 <u>有</u>	困り感や支援の必要性は <u>有る</u> と考えるが <u>本人と異なる</u>
パターン③	困り感 <u>有</u>	困り感や支援の必要性は <u>無い</u> と考えている
パターン④	困り感 <u>無</u>	困り感や支援の必要性は <u>有る</u> と考えている

・上記表 1 のいずれのパターンであっても、客観的なアセスメントを踏まえ、それぞれの困り感や支援の必要性を整理するとともに、SST実施に当たっての意識の共通化に向けた取組が重要。
・また、SST実施前のみならず、実施期間中も適宜フィードバック等を継続していくことが必要。

2 本人と保護者の理解を得ることによる効果

SST実施前の情報共有・合意形成や実施期間中のフィードバックを通して、本人と保護者の理解を十分に得ながらSSTを実施することで、主に次のような効果が期待できる

本人への効果

社会生活での苦手な点や自身の特性を理解する機会となる。また、SSTの内容や目的、目標を理解することで、SSTを行ううえでの動機付けや意識・主体性の向上につながるとともに、学校や家庭での般化の促進につながる

保護者側への効果

本人の障害受容や特性の理解が深まることに加え、日々の関わりの振り返りや不足していたスキルの気付きの機会となる。また、家庭での日々の関わりに実践することで、般化の促進につながる

支援者への効果

本人や保護者の困り感や状況をSSTの内容等に反映することで、より適切な支援内容や目標設定の検討が可能となる。また、本人や保護者との信頼関係の形成と維持につながる

3 情報共有・合意形成やフィードバックの内容やタイミング等について

1 SST開始前

①本人

- ・苦手さや社会の中でのつまずきについて、可能な範囲・タイミングで本人から聞き取り・共有
- ・SSTの内容や目的、目標等の説明

②保護者

- ・家庭での様子や保護者の困り感・願いなどを聞き取り
- ・対象児が抱える課題や困難さの共有や説明、SSTの内容や目的、目標等の説明

2 SST開始後

- ・定期的に支援内容等について評価を行い、本人や保護者へのフィードバックにより、達成度や本人の変容を伝える
- ・フィードバック等を行った後は、必要に応じてSSTの支援内容の修正等を行う

フローチャート（イメージ）

